

# 戦時下のロシア経済

2024年5月8日

新潟県立大学北東アジア研究所 新井洋史

# ロシア経済はなぜ堅調なのか

1. 世界経済とつながっている
2. 内需(政府・家計)は衰えていない

# ロシア連邦概況

国名	ロシア連邦 RUSSIAN FEDERATION
成立	1991年ソビエト社会主義共和国連邦の解体に伴い、成立（独立）
面積	1,710万平方キロメートル（世界最大、日本の約45倍）
人口	1億4,645万人（2023年1月1日現在）
首都	モスクワ（人口1,310万人、2023年1月1日現在） ※欧州最大の都市
政治体制	大統領制（直接選挙）： ウラジーミル・プーチン（第5期、2024～30年）
経済体制	資本主義市場経済（1992年以降に社会主義計画経済から移行）
地域行政区分	89連邦構成主体（24共和国、9地方、48州、3市、1自治州、4自治管区） （ロシアが編入を宣言した地域を含む）
主要都市	サンクトペテルブルク（535万人）、ノヴォシビルスク（161万人）、エカテリンブルク（147万人）、ニジュニノヴゴロド（126万人）、カザン（124万人）、チェリャビンスク（120万人）、オムスク（117万人）、サマラ（116万人）、ロストフ・ナ・ドヌ（113万人）、ウファ（112万人）、クラスノヤルスク（109万人）
出所	ロシア連邦統計庁（ほか）

# 主な対ロシア制裁等

種類	内容
金融規制	個人資産凍結
	ロシア国債の取引禁止
	ロシア中央銀行の外貨準備の凍結
	ロシア主要銀行との取引の制限・禁止
	ロシア主要銀行のSWIFT（国際送金ネットワーク）からの排除
	ロシアへの新規投資の禁止
貿易規制	防衛品・資源開発関連の資機材の輸出禁止
	ハイテク製品（半導体を含む）、奢侈品の対ロ輸出禁止
	ロシア産化石燃料等の輸入禁止、価格上限設定
その他	要人等の渡航禁止
	「ノルドストリーム2」（天然ガスパイプライン）計画の停止
	ロシア国籍の輸送トラック、船舶、飛行機のEUへのアクセス禁止
制裁外の自主対応	多国籍企業の自主的撤退（国際クレジットカードブランド、自動車産業、小売業など）

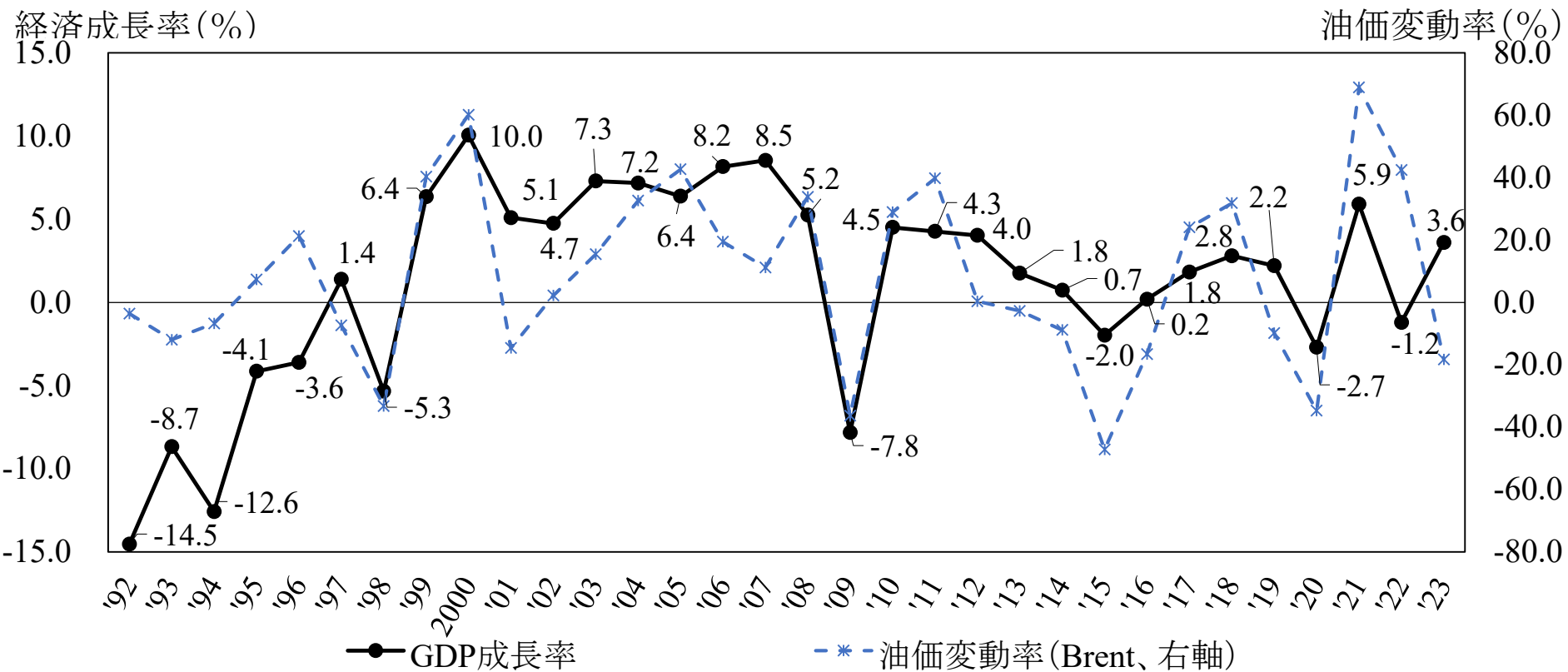
出所: 各種資料より、筆者作成。

# 2023年、ロシア経済は3.6%のプラス成長

## 油価が下落する中でのプラス成長転換は異例

- 内需主導の成長といえる

「制裁の影響は軽微」、「戦争特需」がうかがわれる



データ: ROSSTAT, EIA

# 2024年も経済成長を維持する見込み

IMFは、2024年も3.6%成長との見通しを示している

- 2023年に予想を上回る高成長となったことを受けて、IMFやロシア中銀は予測値を引き上げ

## 2025年以降もプラス成長の見通し

予測機関	公表時期	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
ロシア政府	2023年9月	-	2.8	2.3	2.3	2.2
(参考)	2022年9月	-2.9	-0.8	2.6	2.6	
ロシア中銀	2024年4月	-	-	2.5~3.5	1.0~2.0	1.5~2.5
(参考)	2024年2月	-	2.2~2.7	0.5~1.5	1.0~2.0	1.5~2.5
	2023年2月	-2.5	-1.0~1.0	0.5~2.5	1.5~2.5	
	2022年4月	-10.0~-8.0	-3.0~0.0	2.5~3.5		
IMF	2024年4月	-	-	3.6	3.2	1.8
(参考)	2023年1月	-2.2	0.3	2.1		
	2022年4月	-8.52	-2.29	1.50	1.00	
世界銀行	2024年1月	-	2.6	1.3	0.9	
(参考)	2023年1月	-3.5	-3.3	1.6		
	2022年6月	-8.9	-2.0	2.2		

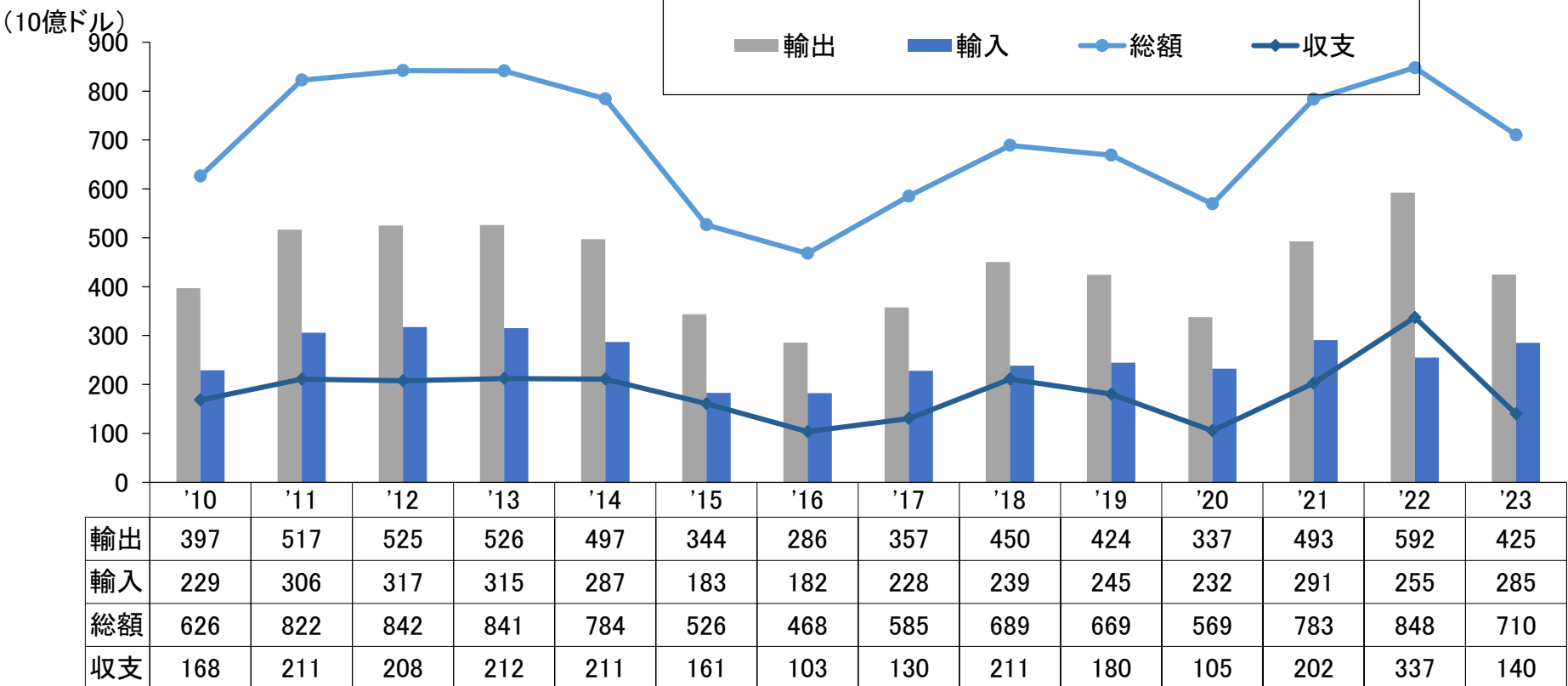
出所:各機関の公表資料に基づき、筆者作成。

# 制裁下にも関わらず、貿易は比較的堅調

2023年の貿易額は、前年比16%減だが、過去10年の平均レベル

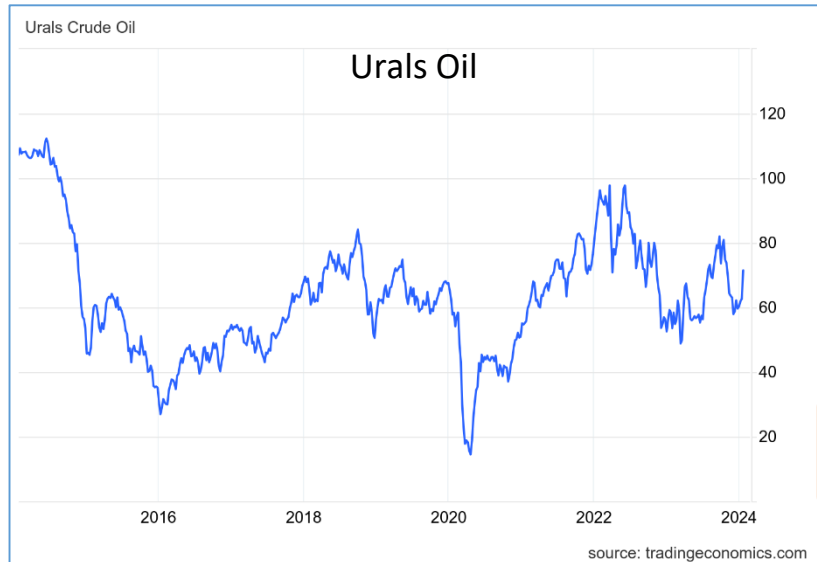
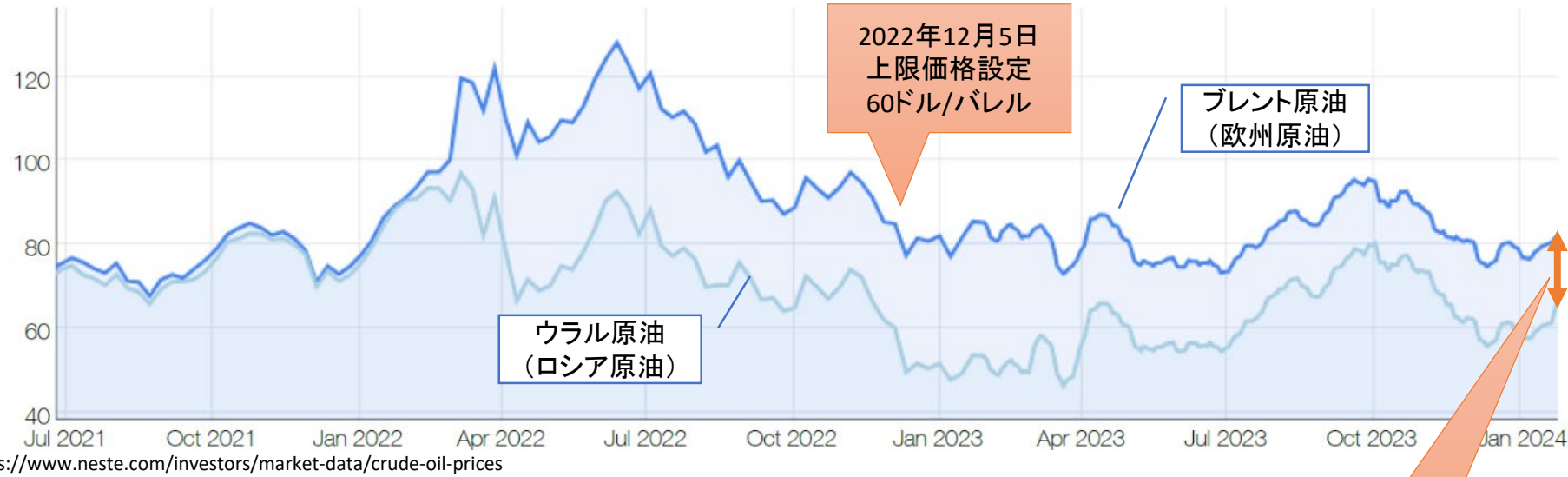
過去最高だった2022年と比べ、輸出は3割程度的大幅減だが、輸入は1割程度増加

※ロシア税関は2022年1月を最後にウェブサイトでの公表を取りやめ。2023年3月に品目別(HS02)の通年データのみを公開。その後、印刷製本された統計集を発刊。



データ：ロシア連邦税関庁

# ロシア産の「ウラル原油」の値引き



2024年1月24日  
約17ドルの差

とはいえ、価格自体は  
コロナ時代より高い水準

<https://tradingeconomics.com/commodity/urals-oil>



# 貿易相手国の構成は変化(2022)

## 西側の「非友好国」との貿易額は総じて減少

- 英国、米国の減少幅が特に大きい一方、ベルギー、イタリア、フランスなど一部欧州国は増加。

## 「友好国」との貿易は増加

- 特にインド向け輸出は対前年比4.6倍もの増加。主に、原油輸入増加による。

国	2021					2022				総額増減率
	順位	総額	輸出	輸入		順位	総額	輸出	輸入	
中国	1	145947	78351	67596	→	1	188490	112225	76265	29.2%
ドイツ	2	65833	34197	31637	↓	4	48013	32485	15528	-27.1%
オランダ	3	40627	31230	9397	↓	6	37473	32820	4652	-7.8%
ベラルーシ	4	40030	23660	16370	↗	3	49177	29005	20172	22.8%
米国	5	36022	29635	6387	↓	14	16173	14458	1715	-55.1%
トルコ	6	34734	28959	5774	↗	2	68192	58849	9343	96.3%
イタリア	7	30982	21919	9064	→	7	34182	28015	6168	10.3%
ポーランド	8	29113	19662	9451	↓	9	21374	16277	5098	-26.6%
韓国	9	27336	17357	9980	↓	10	21146	14817	6328	-22.6%
日本	10	21808	13964	7843	↓	11	19814	15139	4675	-9.1%
英国	11	21705	17695	4011	↓	21	8677	7369	1308	-60.0%
カザフスタン	12	21098	14908	6189	↗	8	26683	18146	8537	26.5%
フランス	13	19077	11481	7596	↗	12	19353	16048	3305	1.4%
フィンランド	14	14498	10065	4433	↓	20	8961	6724	2237	-38.2%
ベルギー	15	14354	9202	5151	↗	13	16918	13095	3823	17.9%
インド	16	12055	8724	3332	↗	5	42966	40054	2912	256.4%
世界		778357	507144	271212			835575	615783	219792	7.4%

注: 相手国側データに基づく値  
データ出所: IMF DOTS

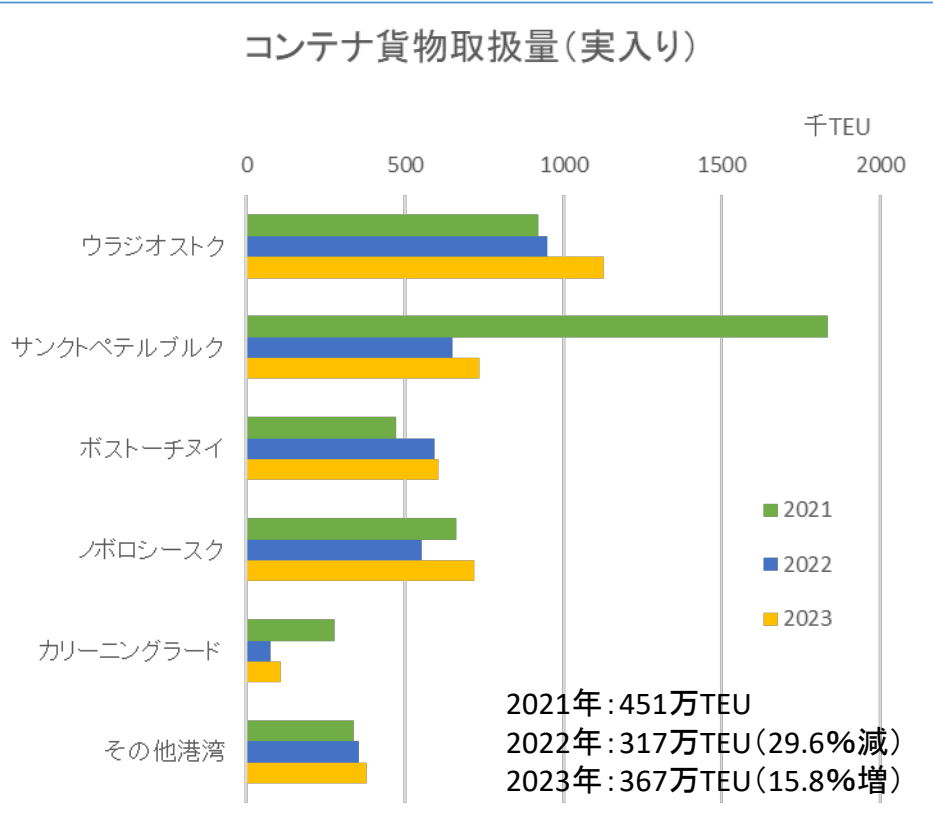
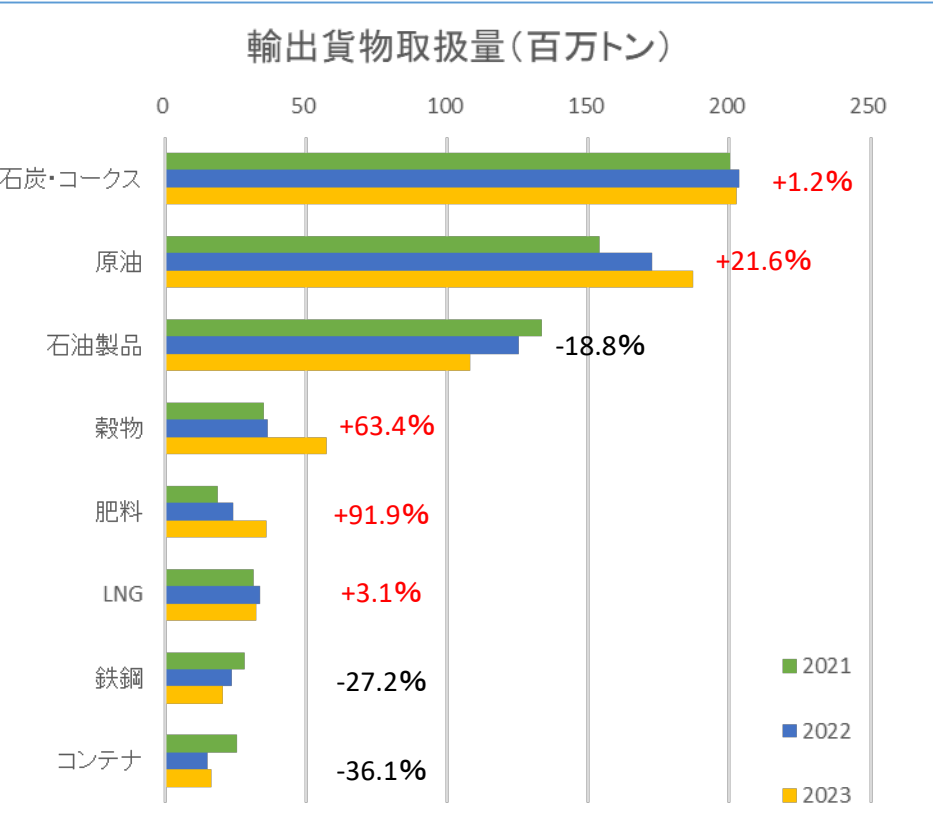
# 港湾貨物取扱量に見る貿易動向(2021-23年)

## バルク貨物: 港湾経由輸出貨物量は戦争前と比べて増加傾向

- 原油が急増(パイプライン輸出からの振り替え、石油製品の減少の裏返し?)
- 穀物・肥料の輸出が急増

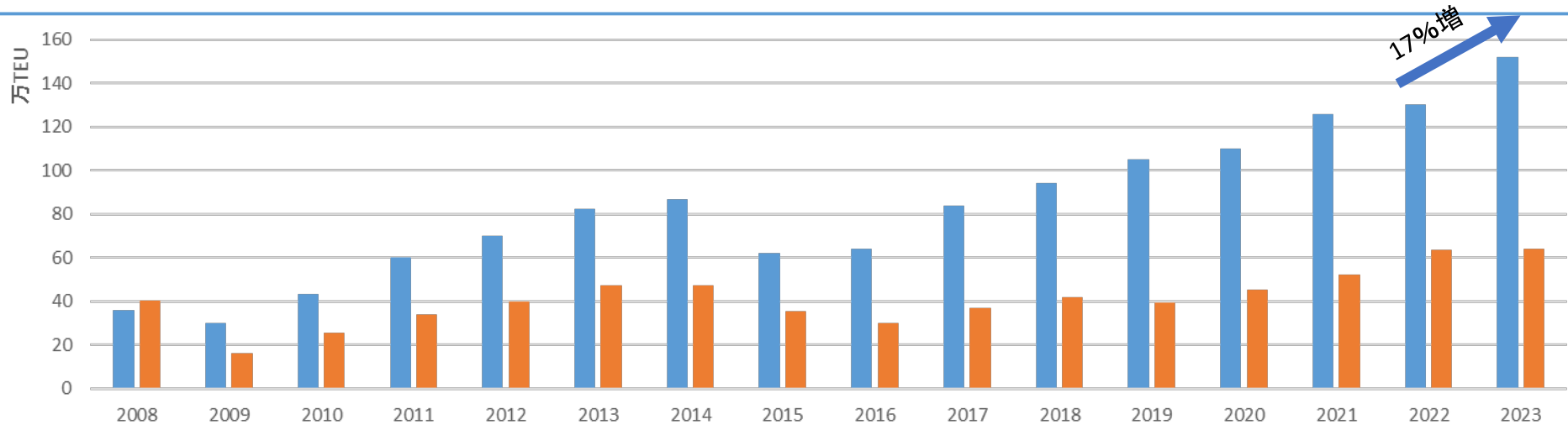
## コンテナ貨物: 総量は回復半ば、取扱港は西から東にシフト

- サントペテルブルクは、依然として、21年実績の4割程度



データ出所: Morcenter-TFC

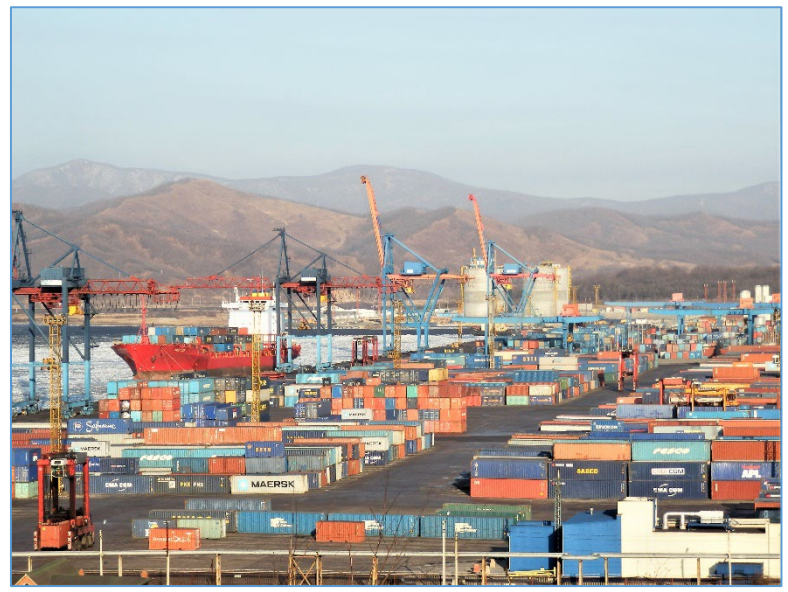
# ロシア極東港湾のコンテナ取扱量は増加



17%増

データ: Mortsentr TEK

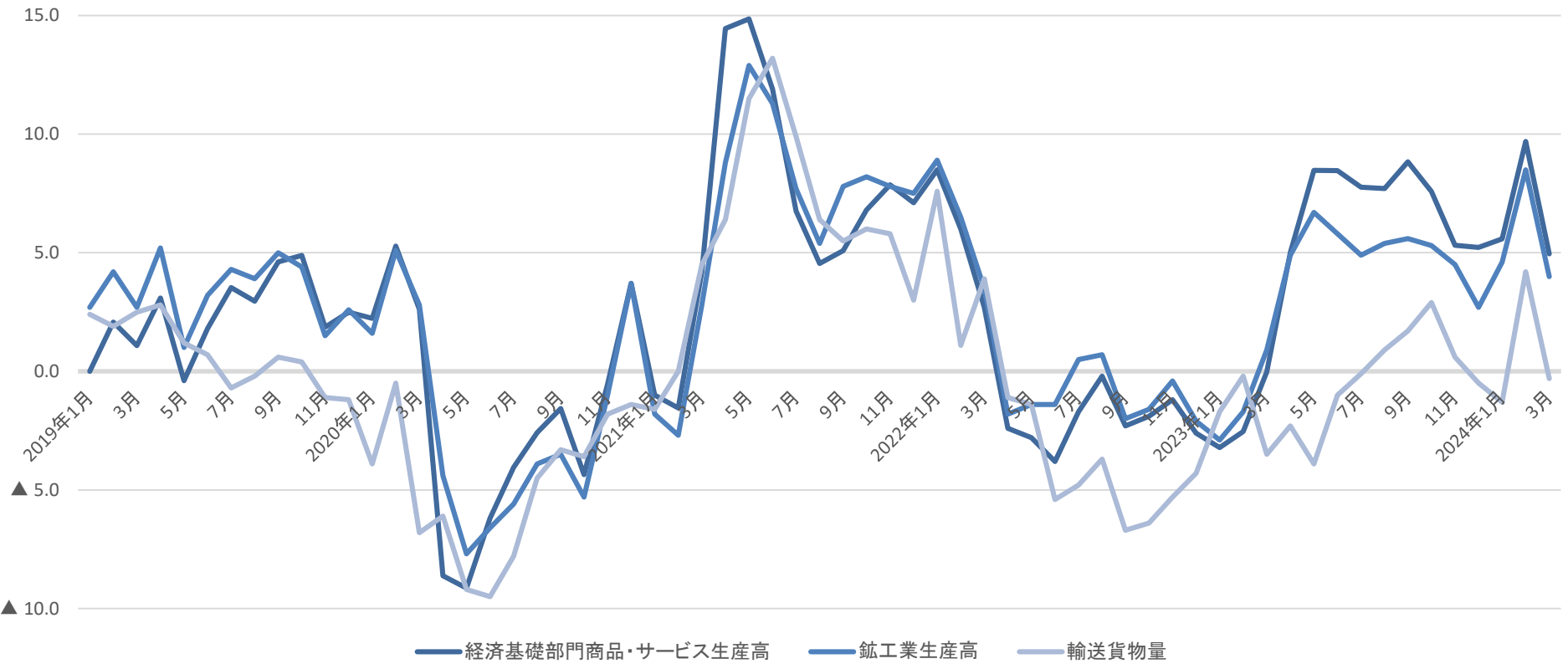
■ ウラジオストク ■ ポストーチナイ



# 2023年に生産活動は急回復

特に、第2、第3四半期に対前年同期比で約5%を超える増加が続いていた

- 前年のマイナスの反動分を考慮したとしても、かなり大きな伸び
- ただし、第4四半期以降はやや減速傾向
- 貨物輸送量は回復が遅れており、2021年の水準まで戻り切れていない



データ: ロシア連邦統計庁

# 政府の歳出が景気下支え

2022年、23年は赤字決算 ⇒この先3年間も財政赤字を前提としている

2024年は、前年比16%もの大幅な歳出増を見込む

歳入増、国債発行、国民福祉基金などにより歳出を賄う計画

歳入増が実現できるのか？国債が消化できるのか？など不安要素はある

(単位：10億ルーブル)	2022	2023 (見込み)	2024予算	2025予算	2026予算
歳入総額	27 824.4	28 674.1	35 065.3	33 552.4	34 051.0
対GDP比	18.1	17.3	19.5	17.6	16.8
歳出総額	31 118.9	31 674.8	36 660.7	34 382.8	35 587.4
対GDP比	20.3	19.1	20.4	18.0	17.6
赤字 (-) / 黒字 (+)	-3 294.5	-3 000.7	-1 595.4	-830.5	-1 536.4
対GDP比	-2.1	-1.8	-0.9	-0.4	-0.8
石油・ガス収入を除いた赤字	-14 880.7	-11 864.3	-13 099.7	-12 590.2	-12 951.1
対GDP比	9.7	7.1	7.3	6.6	6.4
赤字補填財源					
国債発行	1 841.9	1 498.3	2 686.2	2 856.8	3 369.3
国民福祉基金からの拠出	2 974.7	3 461.7	1 301.8	1.7	0.0
その他財源	-1 522.0	-1 959.3	-2 392.6	-2 028.0	-1 832.9

出所：2024年及び2025-2026年連邦予算案説明資料

# 財政は綱渡りが続く(？)

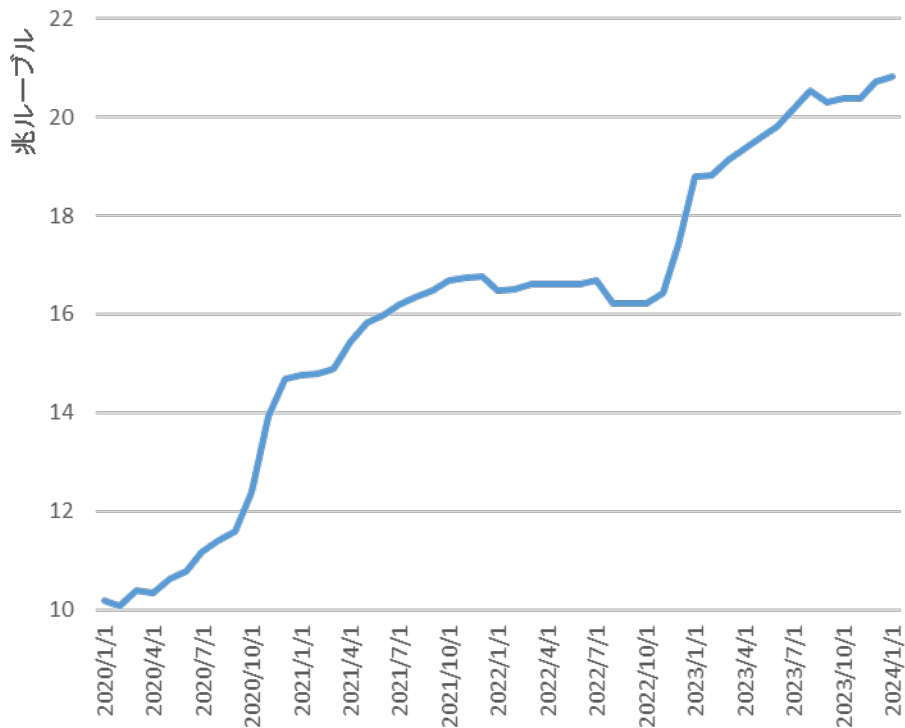
## 国内債務は2022年末以降に急増

- とはいえ、今のところ国内債務残高はGDPの1割強の水準 ←ウクライナ侵攻以前の健全財政の賜物
- 問題は、今後も国債が安定的に消化されるのかどうか

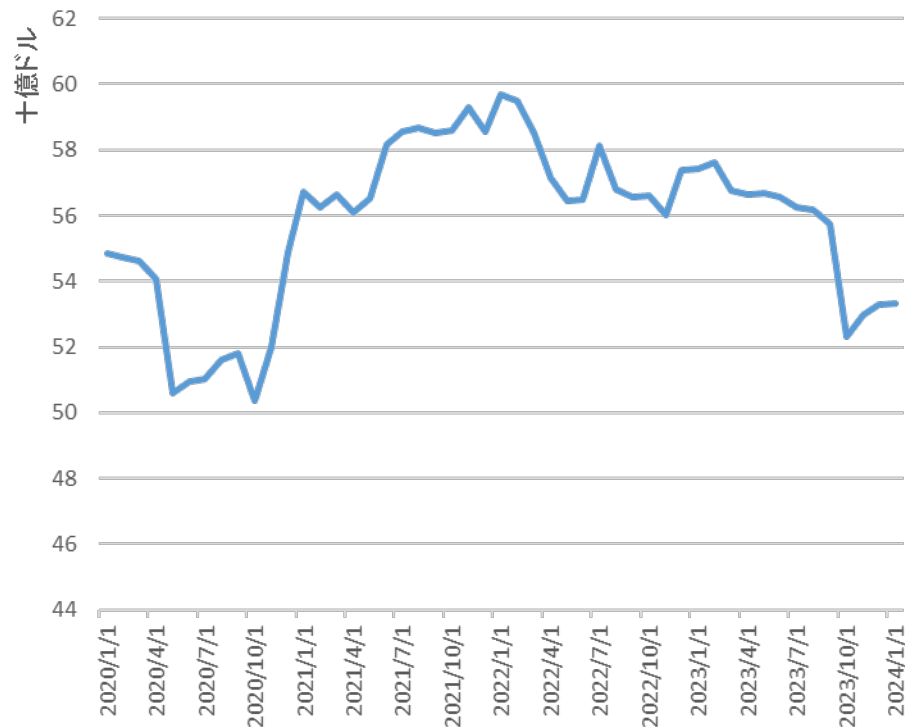
## 対外債務は減少傾向

- 制裁の影響でもあり、自ら対外依存を低下させようとの意図でもある

政府国内債務



政府対外債務



出所：ロシア連邦財務省データ等に基づき筆者作成

# 産業別GDP(付加価値額)の増減(2023年)

## 軍需による生産押上げがあった？

増加した上位4部門は、軍需関係が推測される産業  
 「その他輸送用機械」のうち、鉄道車両は26.6%増、航空機は26.5%増

## 大きく減少した部門はほとんどない

増加部門上位	対前年同期比	減少部門上位	対前年同期比
コンピューター、電子・光学機器製造	131.1	コンピューター、個人利用機器等の修理	86.3
金属製品製造(機械・設備を除く)	126.0	排水回収・処理、汚染除去	94.4
その他輸送用機器製造	122.7	海運・水運業	97.4
自動車・二輪車販売・修理	120.9	リース業	97.4
旅行業及び関連サービス	119.2	製紙、紙製品製造	98.1
電気設備製造	117.4	スポーツ・休養・娯楽	98.3
広告・市場景気調査	116.9	農畜産業、狩猟	98.8
建物・敷地警備・管理、各種の営業支援業務	115.3	法務・会計業務、管理的業務	99.6
水産業	114.8	木材加工(家具製造を除く)	99.7
家具、その他製品製造	114.4	倉庫業、運輸関連サービス業	99.8

データ:ロシア連邦統計庁

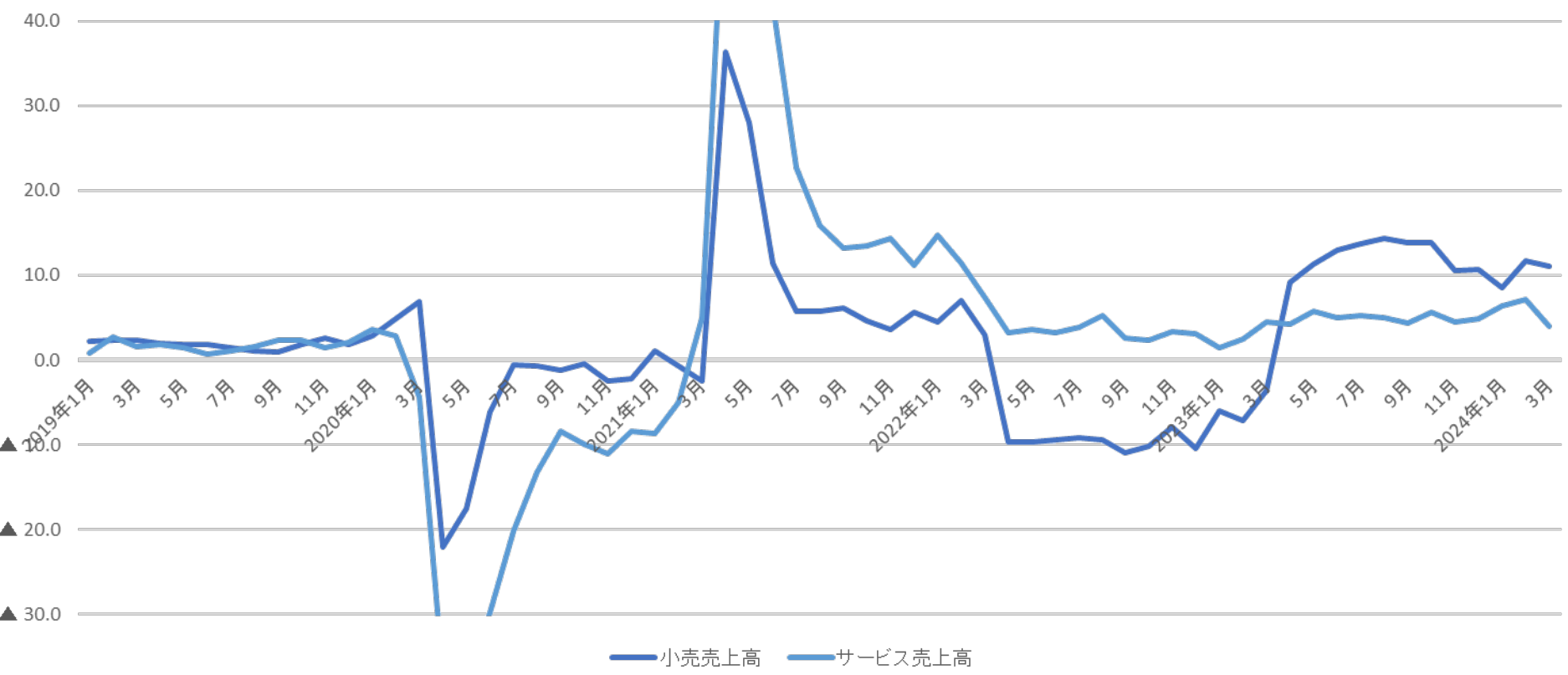
# 消費は好調を維持

サービス売上高：制裁下でも対前年比プラスを維持

- 旅行やホテル・飲食など対個人向けサービスが好調 ←国内旅行が盛況だった

小売売上高：マイナス圏に沈んでいたが、2023年4月以降に反動増

2023年の消費者物価上昇率は7.4% =ロシア人にとっては「普通のインフレ」



データ：ロシア連邦統計庁



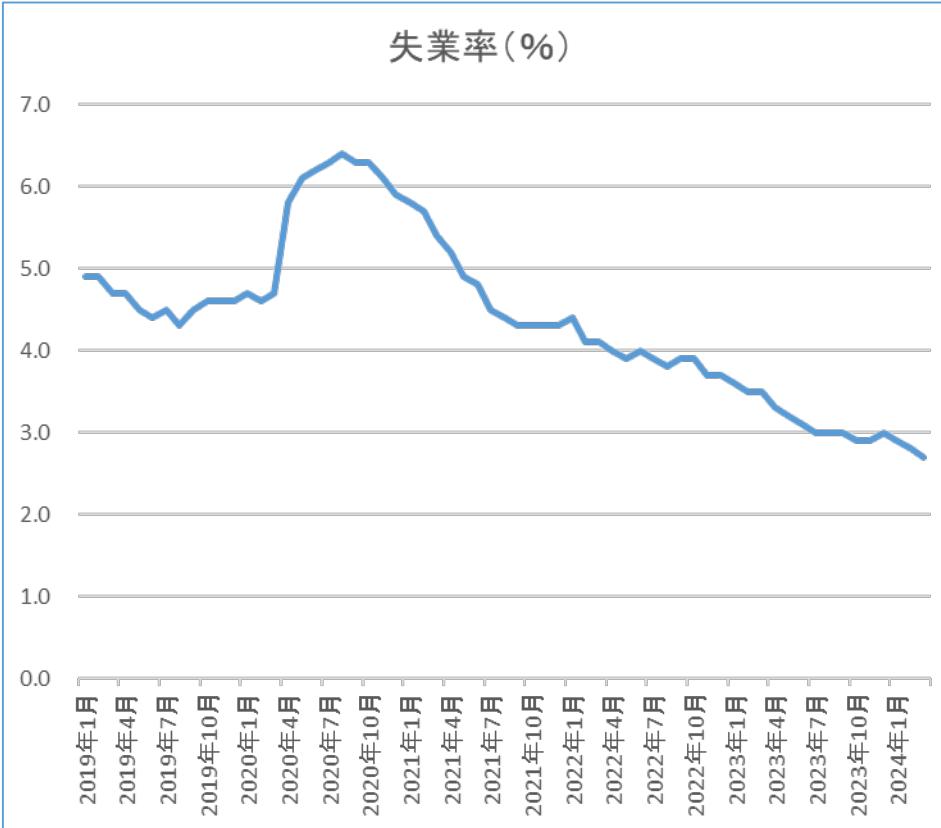
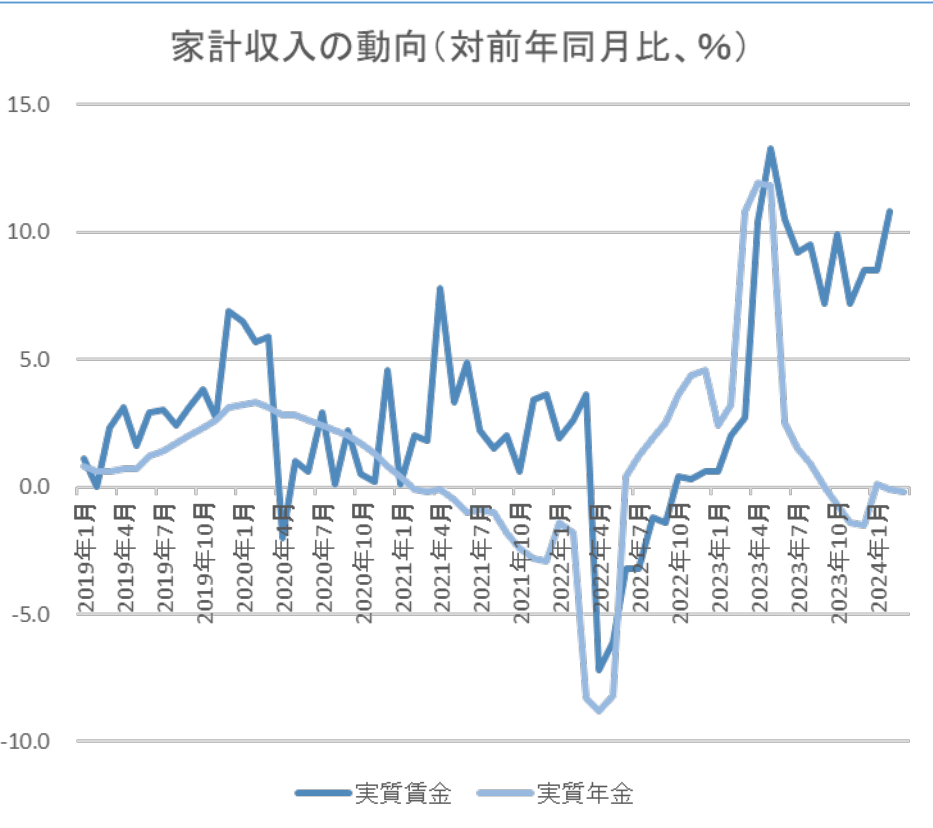
# 低失業率を背景に、賃金が上昇中

2023年春以降、対前年比10%前後の実質賃金増が続いている

- 年金支給額は政策的に積極的に引き上げられてきたが、足元では息切れ(財源難?)

失業率は低下傾向を続け、歴史的低水準(2024年3月=2.7%)

- もはや労働力不足の状態 ←2022年10月の部分動員(30万人)、若者の国外流出(100万人?)などの影響



データ: ロシア連邦統計庁

# ロシア消費者心理も改善

※消費者信頼感指数： アンケート調査での回答者の主観(良い／悪い)の割合に基づき計算した指数

## 消費者信頼感指数は2022年第2四半期を底に改善傾向を維持

- 2022年第2四半期に-31% ←過去最悪(-32%: 2015年1Q)水準
- 戦線の膠着状態が続いていることで、一定の「安定感」が生じている？
- (常にマイナスが続いている＝悲観的なロシア人気質を反映している。)

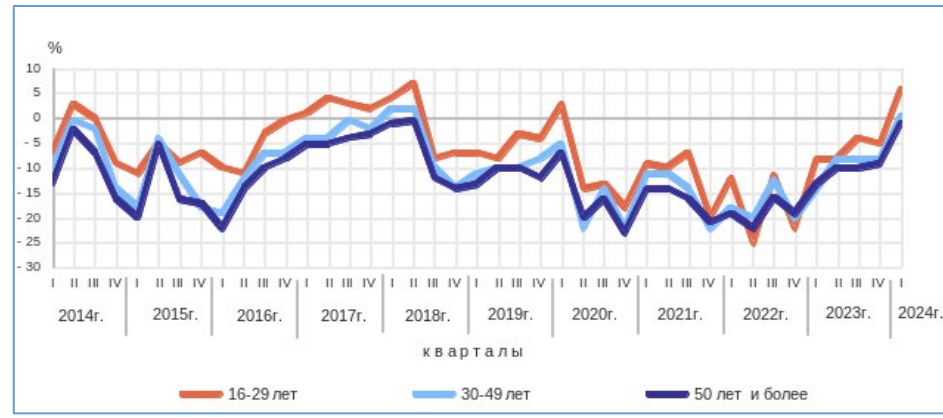
## ロシア経済の先行きについても、やや楽観的な方向に向きつつある

- 2022年第2、第4四半期に悲観的だった若年層の改善が顕著

### 消費者信頼感指数



### ロシア経済の将来見通し指数



データ: ロシア連邦統計庁

ご清聴ありがとうございました。